博多区

下月隈団地

送迎　移動販売車　臨時販売所

地域と事業者で魅力ある臨時販売所を！

地域の特徴

- 人　　口：2,162人（65歳以上：889人）
- 世 帯 数：983世帯
- 高齢化率：41.1％
- 地域特性：坂が多い住宅街

博多区の南東部に位置し、東側は糟屋郡志免町に、北側は東平尾公園に隣接している丘陵地で、昭和40年代に開発された戸建中心の住宅街で形成されています。地域の南側と北側の標高差は20mあり、階段状の道もあります。現在、歩道の街路樹撤去やフラット化をすすめていますが、現時点では歩道に凹凸が多く、買い物カートを引いて歩くことができず、やむをえず車道を歩く人も見受けられます。

買い物先の環境

地域の南側にスーパーマーケットがあり、他に組合員向けの生活協同組合の販売所もあります。また、地域の特別養護老人ホームが、月に2回、買い物に困っている方を対象にスーパーマーケットまでの送迎を実施してきました（新型コロナの影響により現在は休止中）。公共交通機関として地域の南端を路線バスが走っていますが、住宅街の中は通っていません。坂が多く、買った物の持ち帰りが困難な高齢者もいるようです。

買い物支援の概要

- 実施主体　　下月隈団地自治会
- 協力事業者　　大輝
- 実施曜日・時間　　第2・4木曜 12:00～13:00
  （ふれあいサロン終了後）
- 取扱品目　　青果、精肉、鮮魚、日用品など
- 実施場所　　下月隈中央公園
  （雨天時等は下月隈団地集会所）
- 感染症対策　　消毒液設置、マスク着用、対人距離の確保

日よけに公園の藤棚を活用

朝どれ大根！レシピも紹介。

何にしようかしら♪

雨の日は集会所で

取組みの経緯

1 臨時販売所の開設の試行実施

●事業者選定とアンケート実施

買い物支援に取り組むにあたり、福岡市に登録している協力事業者の中から、特に地域住民が必要とすると思われる生鮮品や日用品等、幅広い商品を取り扱う大輝に協力依頼をしました。これと並行して、地域の全世帯を対象に、希望商品など臨時販売所のニーズについてアンケート調査を行いました。その結果、青果や鮮魚、精肉のニーズが高く、先々の健康や車の運転への不安から、将来的に自身で買い物ができなくなると心配している方が多いということが分かりました。これらのアンケート結果を踏まえ、臨時販売所の開設の具体的な検討を始めました。

●日時の決定

下月隈団地集会所では、毎月第2・4木曜日に約70名の高齢者が参加するふれあいサロンが開催されており、サロン参加者の中には普段の買い物に不便を感じる方も多くいました。そこで、臨時販売所を開設する日時をサロンの終了後に設定し、「サロン×臨時販売所」という利便性の向上と確実な集客につなげる仕組みを作りました。

●場所の決定

販売場所の検討にあたり、町内にある資源を見渡したところ、「下月隈団地集会所」と「下月隈中央公園」がありました。臨時販売所を開設する上で両会場のメリット・デメリットを整理すると右上の表の通りとなり、地域と事業者で協議した結果、基本的に公園を会場とし、雨天時等は集会所を使用することにしました。

	集会所	公園
メリット	●サロンと会場が同じで、移動する必要がない。 ●天候に左右されにくい。	●サロン時間中に陳列や準備が念入りにできる。
デメリット	●サロンと会場が同じで、設営がしにくい。	●集会所から50mほど離れており、移動する必要がある。 ●天候に左右されやすい。

公園の様子

●試行実施

試行実施に向けて、当日のレイアウトやボランティアの役割分担を決め、チラシの全戸配布や町内放送、のぼりの掲出など積極的に広報を行いました。試行実施当日は、サロンの開催時間中に、地域と事業者で協力して公園内にテーブルを並べ、その上に生鮮品や日用品など様々な商品を陳列するなどの準備を行いました。天候にも恵まれ、約80名が来場し、好評のうちに終えることができました。

賑っています

＜工夫点＞

- アンケートで把握したニーズを踏まえて、試行実施を行った。
- 持続可能な買い物支援に向けて、サロンと臨時販売所の連携により、利便性の向上と確実な集客につなげた。
- 販売場所の候補が複数あったため、それぞれのメリット・デメリットを整理して、地域と事業者で協議の上、決定した。
- 地域と事業者で協力して、商品の陳列等の設営を行った。

2 本格実施におけるさまざまな工夫

試行実施を踏まえ、地域と事業者で様々な工夫を凝らしながら、本格的に取組みを開始しました。

●レイアウト・設営

より商品を見てもらいやすくするため、一番の目玉商品である野菜を入り口近くに配置するなど、地域と事業者で何度もレイアウトの検討を行いました。検討の際にはホワイトボードを用いて可視化し、共有しました。

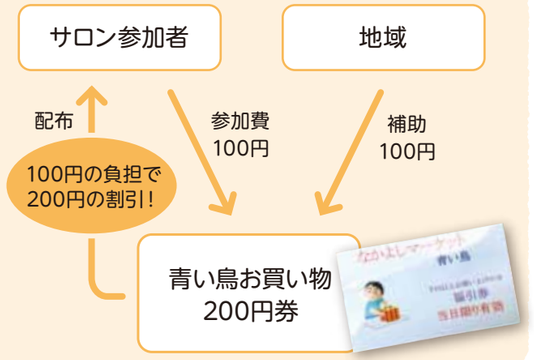
開催当日は、試行実施時と同様、多くの地域ボランティアが活躍し、テントの設営や、トラックから商品を搬出し会場に並べる手伝いを行いました。また、雨の日に集会所で開催する際は、土足で会場に入れるようブルーシートを張るなど、利用者目線を大切にした工夫もしました。さらに、夏場は日除け代わりに公園にある藤棚の日陰を活用するなど、既存の資源を有効に活用しました。

ボランティアで設営の手伝い

●ふれあいサロン「青い鳥お買い物200円券」

サロンと臨時販売所の連携の一つとして、買い物で200円分の割引券として利用できる「青い鳥お買い物200円券」をサロン参加者に配布しています。この割引券の財源はサロンの参加費100円と地域からの補助100円で賄われており、サロン参加者は100円の負担で200円の割引を受けることができます。地域としても、持続可能な買い物支援に向けて、割引分の半額を負担し、臨時販売所の利用とサロン参加の促進を図っています。

■青い鳥お買い物200円券の仕組み



●イベント開催

事業者としても、広い場所で販売を行う臨時販売所の特性を活かして、「バナナのたたき売り」や「当たりくじ」、「みかんの詰め放題」といったイベントを企画したり、野菜を使ったレシピを紹介するなど、地域と話し合いながら、楽しく買い物できる工夫をしています。お互いの協力体制の構築が、持続可能な買い物支援の取組みを支えています。

みかんの詰め放題

＜工夫点＞

- レイアウトを可視化するため、ホワイトボードを用いて検討した。
- 藤棚の活用など、地域にある資源を最大限活用した。
- サロン参加者への割引券の配布により、サロンの参加と臨時販売所の利用促進を図った。
- 広い場所で販売を行うという臨時販売所の特性を活かして、イベントを実施することにより、買い物支援+αの楽しみを利用者に提供し、売上げの確保につなげた。

3 インターネット中継を活用した買い物支援

一般社団法人Eまちラボの協力により、サロン会場である集会所と、臨時販売所の会場である公園を、インターネットを用いて生中継でつなぐ取組みを行っています。事業者から今日のおすすめ商品や値段、産地などの説明をしてもらうことで、商品の配置の確認や、購買意欲の向上を図っています。

●インターネットを活用した買い物イベント

サロンと大川市にある酢製造会社を生中継でつなぎ、集会所にいながら遠くにある工房の様子や商品へのこだわりを知ってもらい、酢の販売を行うという取組みも行いました。

■インターネットによる双方向生中継

サロン(集会所)

臨時販売所(公園)

下月隈団地に学ぶ!臨時販売所の取組みのポイント

POINT

1. サロンと臨時販売所を連携させると、利用者の確保につながり、持続可能な買い物支援につながりやすいです。
2. 地域と事業者で事前にレイアウトを共有しておくと、設営がスムーズになります。
3. サロン参加者への割引券配布の取組みのような、利用者がお得感を感じる仕組みを作ったり、イベントを組み合わせることで、楽しみがプラスされ、魅力的な買い物支援につながります。

関係者の声

利用者に魅力的な買い物支援を心がけています!

月2回のふれあいサロン終了後、臨時販売所を実施しています。これはサロン参加者が総じて買い物支援が必要であることと、サロンボランティアの方の応援を得やすいためです。今後、販売業者の協力を得て、高齢者の希望に添った品揃え等を考慮し、様々なイベントも企画しながら、より魅力的な買い物支援の実施に努めたいと思います。行政、市社協とも協働して高齢者の生活の質が保てるよう活動していきます。

下月隈団地自治会 会長
松下 征雄さん